



るとその先にちょっと変わった地形が現れる。兩岸の岩がちようど石門のような感じで並び立ち、その中心に2mのC.S.滝。左岸に跡跡(二俣のあたりから炭焼き釜あとまで続いていた)があったので、それをたどって越す。

このあとも適当に小滝が出てくる。いずれも割と簡単に直登可能。12:25、水も潤れたので、遡行終了とし、引き返して更に下降を続けることとする。

12:40二俣まで戻り、下降を続ける。すぐ5mの滝。右岸を揃いて下るが、この滝のすぐ下流で合流する支沢には7mの立派な滝がかかっていた。ただ、水量の少ないことが残念である。このあとすぐに北沢本流にてて、への沢(仮称)の下降は終了。

(記)

[タイム] への沢右俣下降開始(11:15)→左俣出合(11:55)→左俣遡行終了(12:25)
→右俣出合(12:40)→下降終了(12:50)→山本不動尊(13:30)

北沢支流ワの沢 1988年9月3日

10:40ワの沢(仮称)の遡行開始。出だしに小滝が3つ続けてかかる。いずれも直登。花崗岩のフリクションがきいて、快適。ホールドも多い。ところがである。その上は平凡。岩質も櫛倉破砕帯を構成する黒い岩に変わってしまった。11:10遡行終了。左手の尾根に上がり、への沢(仮称)をめざす。

(記)

[タイム] ワの沢出合(10:40)→終了(11:10)

北沢支流カの沢 1988年9月3日

9:40、今は棒杭のみとなってしまった何かの標識の立つ827m独標(尾根上の小さなコブ。展望はきかない)上から、カ(仮称)の沢(仮称)をめざして下降開始。急な斜面を下って5分程で沢に出た。ところで、この沢は全く平凡。櫛倉破砕帯を構成する黒い岩層の中を流れている間は、ほとんど滝がかからないという、南沢流域でみられたのと同じ現象があてはまるようだ。1mの小滝

